

全労金2022春季生活闘争ニュース・第38号

～めざそう賃金改善！進めようジェンダー平等！団結しよう、みんなの春闘！～

《合意速報No. 14》

四国労組が金庫との団体交渉で、「基本合意」を表明しました！

四国労組は、3月17日10時から、金庫と「団体交渉」を開催し、基本合意を表明しました。要求と回答は以下の通りです。

	要 求（金庫）			回 答（金庫）		
	正職員	アソシエイト職員	再雇用 嘱託職員	正職員	アソシエイト職員	再雇用 嘱託職員
基本賃金	2～3等級 1,000円	上下限10,000円 定昇調整点 の撤廃	—	2～3等級 500円	定昇調整点 の撤廃	—
一時金	4.4	3.4	—	4.4	3.4	—
昨年実績	4.4	3.3	—	4.4	3.3	—
安定雇用	無期転換	—	(実現)	—	(実現)	—
	登用制度	—	(実現)	—	(実現)	—
最低賃金	時間額1,140円、日額8,360円、 月額175,500円への引き上げ			時間額1,020円、日額7,480円、 月額157,100円		
雇用環境	私傷病休職	(実現)		(実現)		—
	育児時短	協議で解決		協議で解決		—
	ハラスメント	(実現)		(実現)		—
単組独自要求	キャリアコース制度 に関する協議	退職金の改善		協議の開始	退職金の改善	
	—	ローンセンター勤務年数の設定		継続協議		—

《金庫の発言概要》

- 2021年度決算は2年続きのコロナ禍の影響もあり、大変厳しい状況であるが、組合員の皆さんの協力で、計画をどうにか達成できる見通しになっている。
- ロシアがウクライナに侵攻し、極めて危ない状況が続いている。今般の春闘も色々あっても話し合いで折り合いを付ける。これが21世紀を生きる者の暗黙のルールである。そして、結果の如何を問わずその前提になるのが「平和」である。
- 「平和」を願う気持ちは労働組合と全く同じである。世の中が大混乱している今こそ、労働金庫も存在や役割を発揮する時で、そのためにも労使の思いを一つにし

て、この困難を乗り切って行こうではないか。

- 今回示した回答は、四国労金の置かれた厳しい現実を踏まえながらも、「職場の中の格差是正」に重きを置いた要求に対し、最大限の敬意を表すとともに、今後の協力を期待し、精一杯努力した回答である。皆さんにとって決して十分な内容ではないかもしれないが、特段の理解をお願いする。

《白石闘争委員長の発言概要》

- 来年度さらに厳しい経営環境となるとの見通しの中で、原資を伴う要求への回答は、労組の要求主旨や課題認識を受け止めたものであり、職員のモチベーション向上に大きく寄与するものと考え、基本合意を表明する。
- ローンセンターの上限勤続年数は継続協議となったが、「人財確保・定着」「仕事と家庭生活の両立」について労使で知恵を出し合い、課題の解決に向けて議論を積み上げることができた。一方、日本社会では、まだまだ育児や介護を担うのは女性の役割とされ、固定的性別役割分担意識が根強く残っている。この数年間で仕事と家庭生活の両立を理由に退職を選択した組合員が過去にない人数となっている。労働組合としても組合員の思いや悩みをしっかりと金庫と共有し、どのような取り組みが必要か知恵を出し合い、課題の解決を図っていきたい。
- ロシア・ウクライナ情勢により、私たちが平和で安心して暮らすことが脅かされる状況にある。全労金は、結成時に確認した「全労金綱領」で「世界平和への貢献」を掲げ、平和運動を根幹に位置付けている。昨日の拡大闘争委員会では、組合員一人ひとりが私たちにできることを行っていくことを確認した。
- 2022年度以降も四国労金が永続的に発展していくため、労使で知恵を出し合い収益改善に取り組み、職員一人ひとりがこれまで以上に奮闘する必要がある。山積する課題の解決に向け、引き続き労使で活発に議論し、すべての役職員が希望と誇りを持って、行動していくことを労使共通の認識としたい。それらを通して組織風土改革が図られ、「働きがい」を持ち、安心して働き続けられる組織風土となる。労働組合としても、全組合員が一丸となり全力で取り組んでいく。

単組は、①正職員の基本賃金の引き上げやアソシエイト職員の一時金・退職金を含む原資を伴う回答が示されたこと、②アソシエイト職員の職場での役割や奮闘に関する認識を労使で共有できたこと、③中途退職者について、退職理由を把握のうえ、課題解決に取り組む必要性を労使で共有できたこと、等から基本合意を表明しました。

* 合意単組（11単組／3月17日20時現在）

沖縄・北海道・長野・近畿(金庫)・近畿(関連)・新潟・東北(金庫)・東北(関連)
セントラル・中国(金庫)・中国(関連)・中央・北陸・四国(金庫)

以 上